

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 西野寿章	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
【研究成果】	
(1)図書	
1)西野寿章(2018)「戦後のライフスタイルの変化と蚕糸業の縮小過程」, 高崎経済大学地域科学研究所編『日本蚕糸業の縮小過程と文化伝承』, 日本経済評論社, pp.49-82.	
(2)論文	
1)西野寿章(2018)「戦前の山村における町村営電気の開業と地域的条件—岐阜県を事例として—」, 産業研究(高崎経済大学地域科学研究所)53-1・2, pp.1-19.	
(3)研究発表	
1)西野寿章「山村の内発性に学ぶ—共有林の地域的機能と地域づくり—」, 第9回東日本入会・山村研究会基調講演(2017.9.1 新潟大学新潟駅サテライトキャンパス). 講演内容は, 原稿化され『東日本入会・山村研究会報』第10号, pp.2-12, 2018に収録.	
2)西野寿章「日本における地域電化と住民参加—1909～1974—」, サントリー文化財団研究助成プロジェクト「再生可能エネルギーによる地域再生の人文社会科学的解明, 知見の国際移転, そして理論と実践の相互作用による人的ネットワーク形成」(研究代表者・京都大学大学院経済学研究科・諸富徹教授)出版論文検討会(2018.3.26 京都大学).	
【学外研究費獲得状況】	
1)科学研究費基盤研究(A)「中山間地域における林業合理化・森林管理・住民生活の為のマネジメント=モデルの構築」(平成26～30年度, 研究代表者・大阪大学文学研究科・堤研二教授).	
2)科学研究費基盤研究(B)「集团的林野経営の歴史的変遷と今日的課題に関する地理学的研究」(平成27～29年度, 研究代表者・明治大学商学部・中川秀一教授).	
3)科学研究費萌芽的挑戦研究「共有林の保護・再生と中山間地域の人口流出抑制・人口流入」(平成27～29年度, 研究代表者・高崎経済大学地域政策学部・金光寛之教授).	
【教育成果】	
【学部講義】 担当講義の学生評価は, 農村地理学 90.0点, 観光地理学 88.7点, 地域振興論 94.7点であった(地域政策学入門は3人の教員による授業のため除外). いずれも学部, 大学全体の平均点を上回っているが, 引き続き受講者が問題意識を持って, 地域の諸問題に興味関心を向けてくれる参加型授業となるよう考えたい.	
【学部演習】 担当している演習Ⅰ(3年生)では, 毎年, フィールドを定めて地域調査研究を行い, 調査報告書を刊行している. 2017年度は, 特異な地域づくりを行っている山形県最上郡金山町を研究フィールドとして, 現地調査を行って, ゼミナールの地域調査研究報告書第26集『非合併山村の現状と地域振興—山形県最上郡金山町を事例として—』を2018年3月15日に刊行した. 演習Ⅱ(4年生)は, 全員, 卒業論文を提出し卒業に至った.	
【大学院】 博士課程在籍者が休学したため, 修士課程の講義のみ担当.	
【社会的活動】 2017年度に学外で担当した公表可能な委員, 社会的活動は次の通りである.	
【学会関係】 経済地理学会・評議員, 常任幹事	
【行政関係】 1)群馬県ぐんま緑の県民税評価検証委員会委員長, 2)群馬県公共事業再評価委員会委員, 3)群馬県森林・緑整備基金評議員, 4)群馬県教育文化事業団・ぐんま伝承文化継承委員会委員, 5)群馬県埋蔵文化財調査事業団評議員, 6)高崎市市有林管理委員会副委員長, 7)群馬県嬭恋村総合戦略評価委員会座長, 8)群馬県高山村まち・ひと・しごと創成推進委員会	

委員長ほか.

【その他】群馬県企画部・過疎山村地域活性化講演会講師(2018.2.8 群馬県庁).

2 その他の事項

- ・学長より、引き続き2017・2018年度の地域科学研究所長を任命された。産業研究所時代からの事業は、高崎市製造業に関する研究成果に基づいたシンポジウムを2017.7.29に実施して終了し、研究所発足記念企画として進めた富岡製糸場世界遺産登録関連研究も、2017.12.9の研究成果報告会を経て、2018.3末に成果を刊行して、予定を終了した。また、恒例の公開講座の運営に加え、地域科学研究所発足後にスタートした連携公開講座、地域めぐり(エクスカージョン)、地元学講座、地域経営セミナーについても、滞りなく実施した。
- ・研究では、科研費3件、民間研究助成1件の4件の研究を同時並行的に進め、一部の成果は論文として公刊し、学会発表を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

【研究】

- ・戦前、戦後を通じた山村地域電化過程の研究の集大成に向けて、論文の執筆を進める。
- ・2015～2017年度に進めた科学研究費による山村集落の持続のための政策原理の析出は、仮説を裏付ける分析結果を得ることができたものの、一般化するにはさらなる分析が必要となっている。幸いに、継続して科学研究費が採択されたことから、理論の一般化をめざして、より深い研究に取り組みたい。

【教育】

- ・2018年度の演習Ⅰ地域調査研究は、日本一高齢化の進んだ過疎山村・群馬県南牧村をフィールドして行う。南牧村は、すでに2001年度に調査研究を行い、調査報告書を刊行しているが、今回は、特定の集落の他出者も含めた徹底した調査により過疎化、高齢化のメカニズムと他出者のUターン・インセンティブ調査を行う予定である。
- ・講義は、より分かりやすい興味関心を引く内容となるよう、教授方法を工夫したい。
- ・大学院は修士課程に入学者が在籍することから、質の高い研究を行えるように、副査教員の助言を受けつつ、指導したい。

【地域貢献】

- ・4年度目となる地域科学研究所長の任務遂行のために、一層の努力をしたい。2018年度からは、本学学生が運営している中心市街地にあるカフェ・あすなろにおいて、所員と市民有識者による「あすなろゼミ」がスタートする。さらに高崎経済大学ブックレットを研究所の担当で刊行することにもなった。新事業が滞りなく遂行できるよう気を配りたい。
- ・群馬県や市町村の各種委員会委員について、責任を持って任務を遂行し、地域政策学の実践の1つとして取り組みたい。